

**経済危機後の韓国：成熟期に向けての
経済・社会的課題**
- 研究会中間成果報告 -

奥田 聡 編

2005年3月

独立行政法人 日本貿易振興機構
アジア経済研究所

目次

目次

執筆者紹介

はしがき

第1部 経済

第1章 韓国の成熟先進国化と対中競争力の確立・・・任千錫・・・ 1

はじめに

第1節 韓中経済関係の現状と特徴

第2節 中国経済の韓国への影響と課題

第3節 韓国の競争力強化と韓日経済協力

終わりに

参考文献

第2章 韓国における財閥問題

- 現状・諸議論・政策対応 -・・・安倍誠・・・ 25

はじめに

第1節 財閥の現状

第2節 財閥をめぐる諸議論

第3節 財閥問題への政策対応

まとめ

参考文献

第3章 経済危機後の財政問題

財政圧迫要因と健全財政への政策対応・・・渡辺雄一・・・ 49

はじめに

第1節 経済危機以前の財政運用

- 第2節 経済危機後の財政運用
- 第3節 財政健全化への政策対応
- おわりに
- 参考文献

第2部 社会

第4章 経済危機以降の韓国の雇用構造の変化と新たな労働政策及び労働運動の展開

- 非正規労働者問題を中心に - 横田伸子 . . . 81

はじめに

- 第1節 「IMF 経済危機」と雇用構造の変化
- 第2節 韓国の非正規労働者の実態
- 第3節 非正規労働者問題の政策的争点
- 第4節 経済危機以降の労使関係の変化と労働運動の新たな模索
- 参考文献

第5章 自活支援事業改革の動向と就業貧困層 五石敬路 . . . 105

はじめに

- 第1節 自活支援事業の沿革
- 第2節 「就業貧困層」の動向と特徴
- 第3節 自活後見機関における就業者調査
- おわりに 盧武鉉政権の改革案について
- 参考文献

第6章 持続可能なセーフティネット構築に向けての課題 . . . 株本千鶴 . . . 127

はじめに

- 第1節 経済危機後のグランドデザイン、「生産的福祉」と「参与福祉」
- 第2節 少子高齢社会に対応するセーフティネットづくり
- 第3節 実行上の問題と「発見された」課題

おわりに：もう一つの資本主義への調整

参考文献

第7章 韓国における少子高齢化と年金問題・・・・・・・・・・奥田聡・・143

はじめに

第1節 韓国における少子高齢化と経済への影響

第2節 日韓国民の年金に対する意識の差

痛みを受け入れ始めた日本と拒否する韓国

第3節 韓国の公的年金制度と問題点

おわりに

参考文献

執筆者紹介

はしがき・第7章

奥田 聡(おくだ・さとる)・・・・・・・・・・アジア経済研究所地域研究センター
東アジア研究グループ長

第1章

任 千錫(Im Chon Sok)・・・・・・・・・・アジア経済研究所海外客員研究員
建国大学校国際貿易学科教授

第2章

安倍 誠(あべ・まこと)・・・・・・・・・・アジア経済研究所新領域研究センター
技術革新と成長研究グループ

第3章

渡辺 雄一(わたなべ・ゆういち)・・・・・・・・・・アジア経済研究所地域研究センター
東アジア研究グループ

第4章

横田 伸子(よこた・のぶこ)・・・・・・・・・・山口大学経済学部教授

第5章

五石 敬路(ごいし・のりみち)・・・・・・・・・・東京市政調査会研究員

第6章

株本 千鶴(かぶもと・ちづる)・・・・・・・・・・梶山女学園大学人間関係学部講師

はしがき

1997年から98年にかけての経済危機の苦境にあって、多くの人々が職を失い、もしくは所得の減少に苦しんだが、韓国経済は1999年から目覚ましい回復を遂げ、早期に危機から脱した。これは経済立て直しに向けた官民の努力の賜物だった。政府の柔軟かつ迅速な対応もさることながら、金(きん)集め運動に象徴される韓国民一人ひとりの国家経済再建に対する並々ならぬ熱意も、いまだに広く世界の人々の脳裏に深く刻み込まれているところである。

韓国経済が国家不渡りの危機に瀕して以来、すでに7年余りの歳月が経過した。その間、危機後の韓国においてはかつてのような一体感は薄れ、経済主体間の明暗が分かれるようになってきている。海外投資家は韓国の輸出産業や一部大企業の好調を評価しており、これにより株価は大きく上昇している。しかし、好調部門が得た果実が国内に均霑されず、2003年以降国内需要の沈滞が顕著となって経済成長も減速傾向を示したし、雇用の不安定化、大企業・中小企業間、所得階層間、地方・都市間などの格差拡大も顕在化し始めている。こうした中で合計出生率が日本を下回るなど、急速な少子高齢化の進展が見込まれるようになってきている。

こうした状況の下、アジア経済研究所では経済危機後の韓国が中長期的に安定した経済・社会を実現するための課題を考えるべく、2004年度より2年度にわたる『経済危機後の韓国：成熟期に向けての経済・社会的課題』研究会を設置した。本書は同研究会の1年目の成果である。

経済危機後の韓国が抱える問題はきわめて多岐にわたり、研究会の目的を達成するための切り口もさまざまなものが考えられるが、限られた人員ですべてをカバーすることは難しい。それでも、問題の全体像をできる限り明瞭に浮かび上がらせるべく研究会メンバーの間での一応の分担を決め、各人の

関心に沿って大胆に仮説を提示してもらうこととした。研究会の1年目である本年度においては各人の担当分野における問題の発見に努め、今後中長期的な影響をもたらす構造的要因についての考察に意を用いてもらった。また、担当分野における経済危機前後の変化や、同様の变化に見舞われている日本との比較も必要に応じて触れてもらった。

本書は経済と社会の2部構成とした。経済の部分においては対外競争力、財閥問題そして財政制約についての章を置いた。韓国民が今後の生活の豊かさを少しでも確かなものとするためには国内市場だけではなく、海外市場をも安定した販路とする必要があるのではないかと考えた。そこで、第1章(任千錫委員)では、韓国の対中競争力、ひいては北東アジアにおける位置について考察してもらった。次に国内での生産活動の主役ともいえる財閥を扱った。今後の国民経済的な付加価値稼得の上で財閥は重要な存在であるが、第2章(安倍誠委員)では財閥を巡る主な議論をまとめてもらうとともに、政策対応についてガバナンス規制との関連などを絡めながら概観してもらった。また、将来にわたるマクロ経済政策や社会保障・福祉政策など、国民生活の質に深く関わる政策の遂行には国家財政が関与することになるだろうが、これまでの国家財政の運営には基金の運営等不透明な部分も少なくない。そこで、第3章(渡辺雄一委員)では危機後の国家財政についてその実態を明らかにし、今後の財政圧迫要因と健全性維持に向けての取り組みをまとめてもらった。

社会の部分においては労働、貧困、社会福祉、年金についての章を置いた。経済危機後において失業から非正規労働へ、形は変わりながらも問題を内包し続けてきた労働分野について、第4章(横田伸子委員)では特に経済危機の危急期以後に増えてきた非正規職の実態と争点、そして労働運動への含意についてまとめてもらった。次に、経済危機後も困難な状況に直面している貧困層もしくは「疎外階層」について扱うことにした。第5章(五石敬路委員)

では就業貧困層に対する公的扶助制度の枠内における就労促進策である自活支援事業の意義とその改革動向について実証を交えながらまとめてもらった。また、経済危機後に重要性を急速に増してきたセーフティーネットについては第 6 章(株本千鶴委員)で扱った。ここでは危機後のグランドデザインたる「生産的福祉」と「参与福祉」を概観した上で少子高齢化に即応したセーフティーネットの現状と今後に向けての課題を指摘してもらった。最後に、社会保障制度の中でも少子高齢化の影響を最も受けやすく、長期のマクロ経済的インパクトが大きい年金問題を扱った。第 8 章(奥田聡委員)では少子高齢化の展望と年金制度変更の経済的インパクト、そして韓国年金制度の持つ問題点や年金に対する意識の日韓比較そして将来に向けての若干の提案を織り混ぜてある。

本書は 1 年間の研究会運営の成果であるが、荒削りな点も随所に残る未完の作品である。本書の内容を土台として、今後 1 年間の研究会での議論も踏まえ、より完成度の高いものに仕上げたいと思っている。

研究会の運営には多くの方々の協力を得た。後に紹介する研究会の外部委員、内部委員の諸氏への感謝はもとより、若畑省二(元信州大学)、大西裕(大阪市立大学)の両氏は研究会講師として働きに感謝したい。手弁当にもかかわらず参加してくれた有田伸(東京大学)、オブザーバーの石崎菜生(地域研究センター)の両氏のほか、個々のお名前を挙げるのは省くが研究会の議論を活発にしてくれた方々からはさまざまな貴重な意見を得た。沈旻娥(神田外語大学)さんは原稿整理を効率的に行ってくれた。また、研究会が実施した現地調査において委員の面談要請に快く応じてくれた現地有識者の諸氏に対しても特に記して謝意を表したい。

2005 年 3 月

編者